

答 申

(仮称)豊中文化ファンドを活用した文化芸術振興について

平成29年(2017年)9月

豊中市文化芸術振興審議会

1. はじめに

当審議会は、豊中市長から諮問を受け、豊中市文化芸術推進プランに掲げられている（仮称）豊中文化ファンド（以下「ファンド」という。）の創設について審議し、平成29年2月、ファンドの方向性や考え方を取りまとめて答申を行った。この答申においては、ファンドを活用した事業展開について、当審議会内に（仮称）豊中文化ファンド検討部会を設置して、引き続き、審議、精査することとした。

本年度に入り、同部会を7月までに4回開催し、基本的な考え方や具体的な事業に関して検討を重ねた。当審議会は、部会における審議を踏まえ、ファンドを活用した今後の文化芸術振興について、次のとおり答申する。

2. （仮称）豊中文化ファンドの活用の基本的な考え方

(1) 期間を設定した事業展開と評価

ファンドの設置により、文化芸術振興に係る事業を継続的かつ安定的に実施することが可能となる。事業展開をより効果的に行うため、ファンドについては長期的な取組み（おおむね10年程度）を想定して活用するとともに、目標を設定して評価を行い、ファンドの役割等について改めて判断すべきであると考ええる。

(2) ファンドの活用によりめざすべきこと

ファンドの活用については、文化芸術の力を活かして、如何なる地域課題の解決に向け、何年間をかけて、どのような変化をめざして何をするのかというビジョンとプロセスを明らかにする必要がある。

まず、文化芸術は、とりわけ、子どもたちの豊かな感性や創造性を育む。このファンドは、子どもたちが多様な文化芸術に触れ、自らも表現できる機会、環境等（みる・きく・やってみる）の充実を図ることで、その潜在的な力を引き出し、次代を切り拓く人や未来のアーティストを育てることをめざすべきであると考ええる。また、文化芸術は、地域に変化を起こす力をもつことから、これを活かし、社会的包摂等の地域課題の解決に向けたさまざまな取組みを進めるべきであると考ええる。なお、豊中市は地域ごとに、歴史、特性、誇りに思うもの等が異なり、課題も一律ではないことを踏まえ、全市的な取組みに加え、それぞれの地域の課題等にあわせた物語（ストーリー）と事業展開が重要である。

ファンドを十分に活用し、例えば、「アートが豊中を変える。アートで豊中を創る。」等のキャッチコピーを掲げ、豊中市の未来を見据えた人づくり、まちづくりに取り組まれない。

(3) 多彩な文化芸術活動への展開

ファンドを活用する事業の方向性について、豊中市の魅力として定着している「音楽あふれるまち・豊中」をさらに推進するとともに、音楽分野以外での基軸の確立が必要

である。恵まれた資源と、これまでの取組みの中で培われたネットワーク等を最大限に活かし、特定の領域にとどまらない、豊中市ならではの先駆的な取組みの展開を期待する。

3. ファンドを活用する具体的な事業について

ファンドを活用する具体的な事業例について、2月の答申の内容に沿って、次のとおり示す。これらはファンドの創設にあわせ、当面、実施することが考えられるものであり、それぞれの事業の進捗、諸状況等にあわせ、柔軟に展開することが必要である。なお、事業を実施するにあたっての課題、留意点等もあわせて提示するので、参考にされたい。

ファンド活用の具体例(2月の答申)		事業例
(1)市民による自主的な文化芸術活動への支援	自主的な文化芸術活動	文化芸術活動の助成制度 ⇒子どもの文化芸術活動の充実、地域課題の解決等に取り組む文化芸術活動の支援
	文化芸術に関わる調査・研究	文化芸術活動の報奨制度 ⇒市民等の文化芸術活動を広く顕彰 地域課題の解決、地域活性化に関する調査・研究の支援
(2)豊中市の文化芸術活動をリードする事業	「音楽あふれるまち・豊中」(とよなか音楽月間など)の一層の推進	(仮称)「春の音楽週間」 秋の音楽月間に加え、コンサートを短期集中的に実施するなど
	文化芸術の多彩なジャンルから、豊中の個性をアピールできる事業の企画開催	(仮称)「豊中アートフェスティバル」 演劇、音楽、ダンスなど、質の高い多様なパフォーマンスアーツのフェスティバルを市内各所で実施
(3)地域課題の解決(社会的包摂)や地域活性化に寄与する取組み	文化芸術を導入した商業地など都市空間の活性化・賑わい創出	
	社会的課題を抱えた子どもたちを対象にした文化芸術活動の普及啓発	(仮称)「コンサート体験事業」 ⇒全小・中学生が文化芸術センターでコンサートを体験する機会づくり

- 将来にわたり、ファンドに過度に依存することなく効果的・安定的に事業を展開できるよう、事業の運営体制等の将来像をあらかじめ共有することが必要である。
- ファンドを活用して実現したいことと、それへの想いを明らかにする必要がある。これにより、成果の適切な評価が可能になり、また、多くの市民、企業等が、寄附による貢献を実感できる。
- 助成事業をはじめとする各事業を個々の取組みで終わらせず、相互の触発や連携を促し多様な展開につなげることが重要である。毎年度、全体的なふりかえりを行い、成果や課題等を広く共有するとともに、アーカイブとして記録にまとめて発信することが大きな財産となる。
- 豊中市に強い想いをもち、現場に入って課題に向き合いながら取組みを進める鍵となる人材をさまざまな手法で確保しながら、事業を進めることが必要である。

○適切な評価体制を備えるなど、PDCAを意識した取組みにより、年度を重ねるごとに質の高まる事業展開を実現すべきである。

4. むすびに

今回の答申では、ファンドの役割として、文化芸術のもつ力を活かして子どもの創造性を育むこと、次代を担う人を育てること、さまざまな課題に取り組み豊中市の未来につなげることを掲げた。このファンドの役割を広くアピールするとともに、ファンドを有効に活用することを通して、多くの市民、企業等の賛同を得ながら、豊中らしいさまざまな取組みを展開されたい。このことにより、

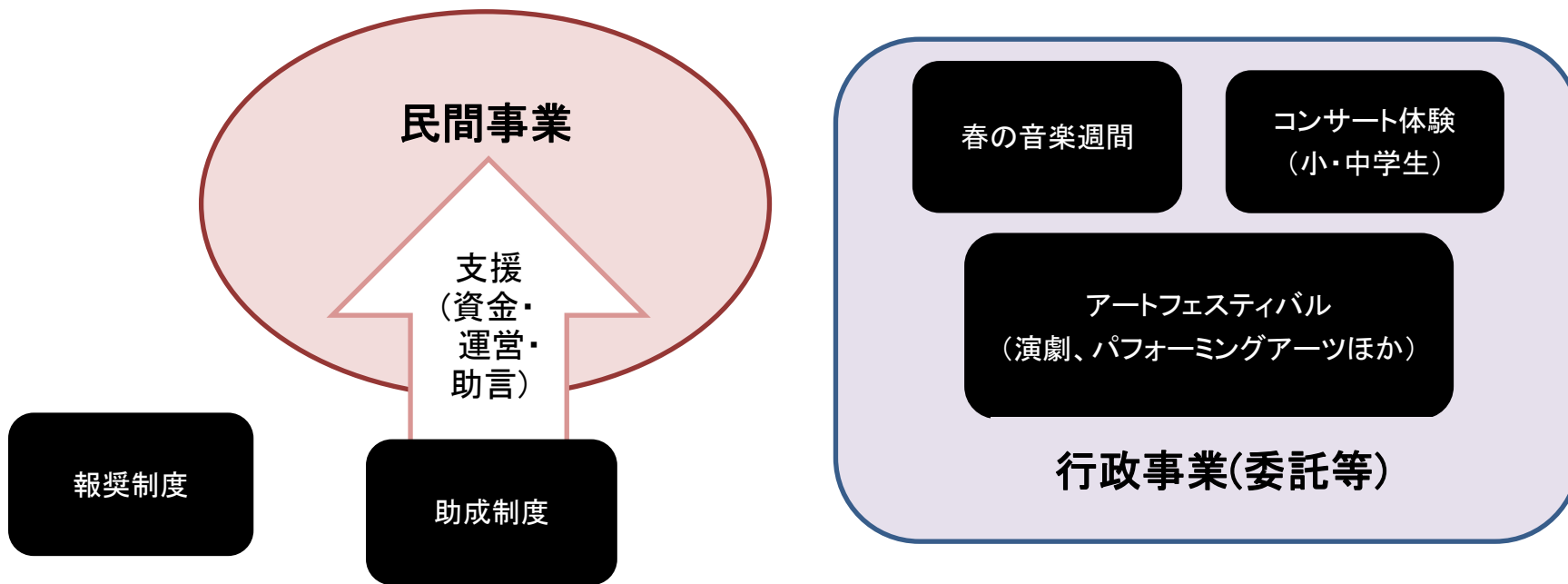
「アートが豊中を変える。アートで豊中を創る。」という「志」が実現されることを確信するものである。

今後、ファンドを設置されるにあたっては、このファンドの志を適切に表す名称を検討されるとともに、ファンドに込めた想いを踏まえた具体的な制度設計と運用、事業の実施、評価等の取組みを進められることを期待する。

(仮称)豊中文化ファンドを活用する事業の考え方[案]

アートが 豊中を 変える。 アートで 豊中を 創る。 T hearts

子どもの文化芸術活動「みる・きく・やってみる」の充実
アートを活かした地域課題への取組み(社会的包摂等)



(仮称)豊中文化ファンド(市積立金+寄附金) 「子ども・人材育成・まちづくり」